

8年間のバケツ稲作り

体験記録

バケツ稲作りマニュアル参考

土作り〔家の田より〕

1 回目耕起

1 2 月 ~ 1 月

肥料 10 ㍓当
味力アップ 60 kg
籾がらくンタン 50 ~ 60 kg

2 回目耕起

3 月 ~ 4 月

肥料 10 ㍓当
種粕 20 kg

3 回目耕起 (出来ない時もある)

5 月

3 月中旬 バケツ稲のセットを注文 (作る人数分を JA へ)

1 セット内容

種籾 2 2 ~ 2 3 粒
元肥 約 1.5g
バケツ稲作りマニュアル
バケツ稲作り観察ノート
お米が実ったよ (JA 中央会より)

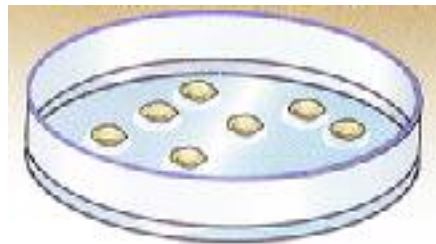
4 月中旬 バケツに入れる田の土の準備

下旬

バケツの用意 17 ~ 20ℓ 1 ケ
12 ~ 15ℓ 1 ケ

水道水の水温調べ

(大桑小は 21 ~ 22)



5 月上旬 籾種子の浸種



小さいカップに水を 3 分の 1 ほど入れ、そこに種子を入れ教室の日当たりの良い場所に置く。(水は毎日取り替えましょう)
籾種子は積算温度が 100 くらいになるとハト胸と言われる白い芽が見えます。教室では 3 ~ 4 日で芽が出ます。(この芽が出た時が種まきの時です。)

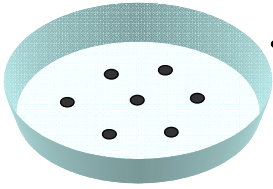
大きいバケツに土を入れよくならししておく。雨の降らない時は水を入れる。

5月中旬

種蒔きの準備

用意する物

- ・直径 10cm くらいの深底の丸い紙のトレイ 1人1個
- ・育苗土（農家で少し分けてもらう）
- ・育苗シート（銀色の射光シート、なければ新聞紙と透明ビニールを使う）



種蒔き

トレイにエンピツの先で3～4ミリの穴を5～6ヶ所あける。

土の入ったバケツの中央にトレイが入るくらいの穴をほる。

（この時、バケツの中の余分な水は出す）

穴にトレイを平に入れ、トレイの中に育苗土を2～2.5cm くらい平に入れる。（育苗土が乾いていたらバケツに少し水を入れ湿らす）

白い芽の出た籾種子（22～23粒）をパラパラと種子どうしが重ならないよう均等に蒔く。

蒔いたらその上に籾種子が見えなくなる程度に育苗土をかける。

雨で水が増えたときトレイが浮かないようにおもしを置く。

温度を上げるために育苗シートをかける。

育苗シートを広げ南側のふちに種子蒔きの終わったバケツを並べる。育苗シートは山になる様に工夫してかけ、温度計などを入れ時々観察出来るようシートの北側はいつでも開けられるようにする。育苗シートのない時は蒔いたバケツに新聞紙をかぶせ透明ビニールをかける。

12ℓ～15ℓのバケツに田の土を一杯に入れて置いておきます。

外の気温が高ければ4日目には白い芽が出ます。

5～6日で3mm くらいの白い芽が出揃います。

（この時トレイが黒く湿っていること）



種まきしてから8～9日目に風のない日に育苗シートの北側半分を開けて徐々に外の自然の状態にならします。

（新聞紙を使った場合、新聞紙は取らない）

2日後くらいに白かった芽が緑色になっています。そして風がなかったら育苗シートは全部開けます。

（新聞紙を使った場合、新聞紙とビニールは取り除く）

雨が降ったら育苗シートをかけます。

育苗土には少し水があった方が良いでしょう。この頃には1～2cm ほどの小さな葉が開きます。少しくらいの雨ならばシートはかけなくても大丈夫です。

5月下旬

大雨が降りバケツに水がたまったらビシャクで汲み出します。
(バケツを傾けて水を出すことは絶対にしない事！)
根の張りをよくし、苗を丈夫にするため浅水にしておくこと。

10～11日目には葉も開き2枚目の葉も見られます。

この頃には苗も8cm～9cmに育っています。
育苗土の水は少なめに管理してください。

そろそろ田植えを考える時期です。
田植えは種蒔きをしてから25日ぐらいです。
苗は12～13cmになっているでしょう。

5月下旬～6月上旬

田植え準備

用意する道具

- ・移植ゴテ
- ・スコップ
- ・寒暖計(外気・土・水温計)

田 植 え

苗の取り方 トレイの下へ手を入れて破れないように注意してバケツより取り出し、他の人に踏まれないところに置いておきます。

1人2個ずつバケツ(大小1個ずつ)を並べます。

元肥入れ 田の土を少しずつ入れ大バケツにはセットに入っていた肥料、小バケツにはエムコート2g(農家でらうかホームセンターで買う)を均等にまき、水を少し入れスコップ又は移植ゴテでよく土とまぜ合します。よく混ぜ合わせたら上を平らにならします。(土の量は多めに入れる)(目安はバケツのふちより3～4cm迄)

トレイの苗をちぎらないよう、折らないように指を土の中に入れて1本1本丁寧に抜き取る。トレイの土は自分のバケツに入れる。

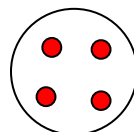


田植え

大バケツ

3本

4株植え

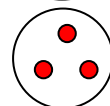


植え方

小バケツ

3本

3株植え



植える時、親指 人差し指 中指をエンピツを持つような感じで使い苗の株元を揃えて第一関節まで植える。

植えた後上から見て苗を結んだ形が大バケツは正方形、小バケツは正三角形であるか確かめましょう。

この植え方だと22～23粒の種籾の苗は余らないはずです。

汲み置きの水を7～8杯作る。

田植え後は天候にもよりますが1週間～10日はバケツに一杯になるくらいの水を入れておくことを守ってください。

水が少なかったり、なくなった時は汲み置きの水をヒシャクで入れてください。(水道水をホースでは絶対に入れない!必ず汲み置き水を使うこと)

- ・当番を決めて水管理をするとよいです。
- ・寒暖計は1番前の中心のバケツに入れて測るとよいです。

6月中旬

田植え後7日目頃より分けつ(株わかれ)が始まるので根元をよく観察する。

この頃から浅水管理(1日で水がなくなるくらい)にして、草取りをしましょう。水管理は3日水を入れて、1日干すの繰り返しを行ってください。

1本の苗がどのように分けつしているのか、分けつ数(茎の本数)や長さ等を調べ記録しましょう。

6月下旬

田植え後25～26日頃から天気の良い日が続く時は2日水を入れ、1日干すの繰り返しをしましょう。曇りや雨の日が続く時は1日水を入れ、1日干すの繰り返しで水管理をしましょう。

この頃には土は固くなり指が入らなくなります。

7月上旬

田植え後40日頃晴天の続く時、2日間ぐらい水を入れず土の表面にひび割れができるくらいまで乾かします。(その2日間が晴天で風があったら1日目の夕方か2日目の朝にヒシャク1杯の水を入れる)

このことを中干しと言って稲の根や土の中に酸素を取り入れるために行います。

中干しの後は2日水を入れ、1日干すの繰り返しの水管理でよいです。

株数や長さを調べましょう。

7月中旬

この頃より『イモチ病、二化メイ虫』に注意すること。

晴天が続く時は、時々バケツ一杯に水を入れてください。

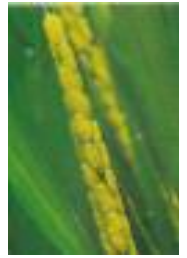
日中(1時～3時)の気温が38以上という日が続くと葉先が白くやける事がある。その時は水温にも注意してください。

反対に曇りや雨の多い時は、時々晴れ間の日に干すとよいです。

7月11日頃より幼穂形成期に入る。(穂の赤ちゃんの出来る時)

7月下旬

稲の葉色が黄色くなりすぎたら追肥（IB化成2g）をパラパラとふり水は一杯にしておきましょう。この頃から水はきらさないよう十分に入れましょう。皆さんが夏休みに入る頃出穂が始まります。



8月上旬



稲の花は AM9:00 ~ PM3:00 頃まで咲きます。そして稲の花はその日に穂の出た分だけつつ咲いていきます。

夏休み中、当番の子は水を切らさないようにしましょう。必ず汲み置きの水を入れてください。夏休み中の水管理によって秋に収穫するお米の増収、減収に関係しますよ。

8月中旬

穂が出ると今度はカメ虫がつくからよく見てください。カメ虫がいたらつぶして駆除しましょう。イナゴ、スズメも来るからよく見ていて対策を考えましょう。

8月中旬には出穂は終わります。この頃からは2日水を入れ、1日干すの繰り返しを続けてください。

台風の前報をよく聞き、この地方に接近しそうな時はバケツに水をいっぱいに入れて、風で倒れたりなどしないようにします。

9月上旬

2学期が始まったら穂数、籾数を調べましょう。

水管理は2日水を入れ、1日干すの繰り返しを続けてください。

この頃になると穂の中の実が詰まってきて重くなり、だんだん垂れてきます。この時の様子を歌ったこんな詩を知っていますか？

『 ^{みのる} 稔 ^{こうべ} ほど頭を垂れる稲穂かな 』



9月中旬

穂首イモチに注意しましょう。

9月下旬

水管理は1日で水がなくなるくらいの浅水管理をしてください。

穂の元の方の青い籾が2～3粒くらいになってきたら、そろそろ稲刈りの時期です。

10月上旬

稲刈りの準備

用意する道具

- ・ノコギリカマ
- ・ハサ掛けの木と竹



稲刈りの時期は穂の下の方に青い朶がなくなる頃がよい時です。稲を刈り取る日が決まったら2日前から水を入れなくてください。稲刈りは刃物を使う作業なので怪我のないよう、なるべく離れて広い所で行うようにしましょう。

大小2個のバケツの稲を一束にからげてハサに掛け自然乾燥させます。

晴天が続けば10日間ぐらいで乾きます。

毎年の事ながら一束にからげるのにどの組も苦労していました。稲刈りをする前にインターネットなどで調べるといいと思います。



稲刈り

10月中旬

脱穀作業は昔式の竹コバシ、ワリバシ、オワンなどの方法を使って行います。大きめの買い物のビニール袋を使いこぼれないよう工夫しています。



籾摺だけはマニュアルにあるスリ鉢とボールで行う方法では時間がかかり、時間がすぐにたってしまいます。それになかなか上手く出来ないようです。

どこか籾摺機のある方をお願いされた方がよい様に思います。



以上がバケツ稲作りの作業工程です。

本当なら稲の生育中の気温、土・水温などを記すと良いと思いながら、粗末な8年間の平均の記録です。

(『バケツ稲作りマニュアル』『お米が実った』の本を参考にしてください)

種物の選別方法 他の種物で実験

(用意する物) 20ℓバケツ、塩 1.5 kg、金網シャモジ、タマゴ (40 g、80 g)

20ℓのバケツに水道水 10ℓ入れる

10ℓの水の中にタマゴを入れる (浮く・沈む)

10ℓの水に塩 0.75 kg入れ、それからタマゴを入れる

(浮く・沈む)

さらに塩 0.75 kg入れ、10ℓの水に塩 1.5 kg入った食塩水にタマゴを入れる

(浮く・沈む)

10ℓの水に塩 1.5 kg入った食塩水に種物を入れる

浮いた物を金網シャモジですくい取る

沈んだ物がよく稔ったよい種物です

家で使う種物の選別と浸種の方法

1. 沈んだ物を水道水でよく洗い種物として消毒液に浸す (24 時間または 48 時間)
2. 消毒液より上げ半日ぐらい陰干しする
3. 種物はこれから約 5 日間水に浸す (芽が出ていない時は一夜風呂に入れる)

以上は家で行う種物の選別及び浸種方法

追 1 k g の白米 (約 7 合) を収穫するのに 4 , 5 0 0 k g の水がいるそうです。太陽と水は何より大切な自然の恵みです。

本田は 1 週間 ~ 1 0 日の間に田を見て回るだけでも収穫量は変わらないけれど、バケツ稲は 2 日手を抜けば次の日にはその手を抜いたことが良くわかる正直なものです。

バケツ稲で変わった事やわからない時はマニュアルの裏のページにバケツ稲作り相談室 (月 ~ 金 10:00 ~ 17:00) という電話窓口があるので、そこに電話すると詳しく教えてもらえます。

このバケツ稲作りでは J A の種籾を残さず又 2 個のバケツから 1 5 0 g ~ 1 8 0 g の白米が収穫でき、子供のにぎりこぶしぐらいのおにぎりが 2 個出来ます。

米作りは毎年々 1 年生という気持ちで今年こそはと思っています。又今年ももう稲作りが始まっています。健康で農業の出来る日が何より幸せです。残された人生を農業に楽しみを求めて過ごしたいです。

つたない記録ですが、私がお子たちとこの 8 年間で作ってきた私なりのマニュアルです。参考になればうれしく思います。

平成 1 9 年 3 月 吉日
山内美志男